

# 留学報告書

工学系研究科機械工学専攻 修士 1 年 藤原知晃

留学先：デルフト工科大学

2016 年 8 月から 2017 年 2 月までデルフト工科大学の機械・海洋・材料工学部に 1 学期間留学した。

## 1. 留学準備

留学しようと思ったのは 2015 年の 12 月ごろでした。その年の夏休みにスウェーデンに留学した友達のところ遊びに行ったこと、アメリカ留学した友達の話や研究室の先輩の留学滞在記を見ているうちに、自分も海外で生活し学ぶということに興味が出て、留学に行こうと思うようになりました。

修論担当の教授の退官時期の都合で一年間留学することはできなかったので、修士 1 年の半年間で留学に行き、中間試問に間に合わせられるようなスケジュールで行き先を探しました。工学系の交換留学で行き先を探したところ、デルフト工科大学に行き当たりました。

デルフト工科大学を選んだ理由は、

- ・オランダは英語が通じやすい国と聞いていたから
- ・1 学期が 2 月初旬に終わり、中間試問にもなんとか間に合うから
- ・交換留学で選べる行き先の中でもレベルが高い大学だったから

などです。

留学前の準備としては、以下のようなことがありました。

### TOEFL iBT

デルフト工科大学の英語要件は TOEFL も IELTS でもいいですが、どちらも基準点が少し高めです。私の場合は、学部で就職することになった場合を考えて念のため受けておいた TOEFL が、ラッキーなことに基準点の 90 点ぴったりだったため、それを使うことができました。

### 奨学金

奨学金については、トビタテ！留学 JAPAN を使いました。東京大学の学生なら普通は理系複合融合系人材コースや世界トップレベル大学コースなどに応募すると思いますが、私がそれらに応募しようとしたらすでに締め切りを過ぎていました。しかし、私の出身地の三重県ではトビタテの地域人材コースの応募をしており、それは締め切りが一月遅かったのでそれに応募することができ、無事に合格しました。

また、もう一つ並行で受けていた地元の市の留学奨学金にも合格することができ、応募時期が遅かったにもかかわらず思ったよりも多い奨学金をもらうことができたというのもラッキーでした。

#### 入学手続き

東京大学の審査面接後の入学手続きは、大学のウェブページを見ながら行いました。手続き自体は特に難しいことはなく、問題なく済ませることができました(たまに連絡が遅い時がありますが)。むしろ、教授に推薦状をもらったり親と相談するなどのことの方が大変でした。

#### 保険

保険については、東大で加入が義務づけられているもの、デルフト工科大学で加入が推奨されている現地の保険両方に加入しました。後で他大出身の日本人留学生に聞いたところ、日本の大学で加入した保険があるから現地の保険は必要ないのではと相談したが、現地の保険に入らなければいけないと言われたとのことでした。

#### ビザについて

オランダに留学する際、日本人はビザは不要ですが、滞在許可証を取得する必要があります。滞在許可証を得るためには、英訳された出生証明書が必要となります。流れとしては市役所で戸籍抄本取得→外務省に戸籍を送りアポストイーユ取得→在オランダ日本大使館に戸籍を提出(現地で直接または国際郵便で)→在オランダ日本大使館で英訳された出生証明書をもらう→出生証明書を大学に提出→後日滞在許可書のカードをもらうというものでした。

## 2. 留学中

留学時には研究室に所属することも考え、留学先の教授にメールを送って見ましたが断られてしまったため、講義受講をメインとすることにしました。

#### 学習について

私が所属したのは機械海洋材料工学部で、東大での学科と近い学部だったため、予備知識を持っている講義も多く初回の授業から何を言っているのかわからないということはあまりありませんでした。講義は英語ですが、先生の喋っている内容は大体は理解できました。英語の専門用語についても直訳で何となく意味が分かったりネットで調べたりすればわかりました。一方、スピーキングに関してはかなり苦労しました。日本で英語をしゃべる機会があまりなかったということもありますが、なかなか発言することが難しかったです。

大人数の授業が多く、生徒間でグループワークということはあまりなかったのですが、受講者が10人程度のある授業では、自分の調べたテーマについてプレゼンを行いました。自分に比べて他の学生のプレゼンは内容も整理されており質問にもはっきりと答えており、レベルの差を感じさせられました。また、ヨーロッパやインド系の学生は全体を俯瞰するようにプレゼンを行うのに対して自分や中国系の学生は一つのテーマに対して詳細に掘り下げていく傾向があり、各国の文化や教育スタイルの違いを感じられたのが興味深かったです。

## 寮

大学から斡旋された会社を通して寮の契約をしました。デルフト工科大学の留学生だけが住んでいる寮で、1フロア20人でキッチンとシャワーが共用です。キッチンで料理を作っているときに他の留学生と話したりするのは面白かったです。ただし、私の住んでいた寮ではほぼ毎週金曜日に他の寮からも人が来て大人数でのパーティーが開かれ、大音量が朝4時ごろまで続くこともありました。私はそんなにパーティーが好きな方ではないので、それについては気に入りませんでした。

## 生活環境

オランダの公用語はオランダ語ですが、もはや半英語圏といっても過言ではないほどに英語が通じます。レストランや売店の人などの人でも英語が通じるので、オランダ語を勉強することはありませんでした(大学でオランダ語講座を取ろうとしましたが、人数制限が厳しく受けることができませんでした)。

気候は、日本よりも少し寒いと思います。学校や寮のまわりは運河がありますが、1月にはそれらが凍るほどでした。私の留学した年は夏は熱波、冬は寒波に見舞われた年だったので参考になるかわかりませんが、しっかりした防寒具を持っていくか現地で買うといいと思います。

買い物時の支払いクレジットカードを持っておけば大体大丈夫ですが、時々デビットカードしか受け付けないところがあります。デルフト工科大学に留学する学生は大学が現地の銀行口座開設を手伝ってくれるので、銀行のカードのデビット機能を使えば問題ありませんでした。物価については、スーパーで買い物する分には日本とそんなに変わらないか少し安いと思います。

治安については、日本ほどは良くないと感じました。オランダはアムステルダム以外は基本的に平和な街が多かったと思います。ただ、一度私の住んでいる寮に侵入者が入り、共用スペースの食料を盗んでいったことがありました。また自転車泥棒は日常茶飯事であり、私も自転車を一台盗まれてしまいました。犯罪に遭わないよう、常に気を付けておくことが必要でした。

## 学習以外の活動

私は学部時代に鳥人間サークルで人力飛行機を作っていたのですが、その経験からオランダで人力飛行機を製作している方にお会いし、人力飛行機について語り合いました。同じ趣味を持った人と技術交換・情報交換をするというのは楽しく、英語でも会話が弾みました。日本に帰った今でも、メールのやり取りを続けています。

また、せっかくの機会なのでヨーロッパ各地を旅行しました。オランダはヨーロッパの交通の要衝でもあり、オランダ国内だけでなくいろんな国に気軽に旅行できるのが楽しかったです。近隣のフランスやベルギー・ドイツの他にも、年末年始にはウィーンの友人の家にお邪魔して正月を過ごすため、東欧各地を旅行しながらウィーンに行きました。

### **3. 留学を終えて**

留学の半年間は、あっという間でした。楽しいこともつらいこともありましたが、良い経験になったことは間違いありません。日本に戻ってからは他の学生と変わりなく修士を卒業し日本で就職するつもりですが、今回の留学で得た経験や考え方、物事に対して国際的な視点を持つことなどを忘れず、人生に生かしていきたいと思いました。